巻頭インタビュー

富士山の魅力に触れる キッカケづくり

住友林業株式会社
サステナビリティ推進室長
飯塚 優子さん

▲社員ボランティア活動の集合写真

入会のきっかけと富士山〝まなびの森〟について

もともと富士山〝まなびの森〟の企画懇談会のメンバーに〝ふじさんネットワーク〟の初代会長である土隆一先生が入ってくださっていて、そのご縁から〝ふじさんネットワーク〟の創設時から企業メンバーになっています。

富士山〝まなびの森〟は、1996年に関東地域南部を襲った台風17号により、大きな被害を受けた富士山麓に広がる国有林をもとの豊かな森に戻すため、1998年に住友林業の設立50周年の記念事業のひとつとして取り組みを始めた自然林復元のプロジェクトです。当時国有林を借り受けて民間の企業が活動するという事例はほとんどありませんでした。「国有林を使わせて頂くのに、企業の宣伝ととられるようなことが万が一にもあったら申し訳がないので、企業名は使わない」という意図から〝まなびの森〟という名称を用い、あえて住友林業の名前を入れていません。毎年開催する企画懇談会では、様々なステークホルダーの皆さんに関わっていただいて「みんなでやって行くんだ」という気持ちで活動をしています。

〝まなびの森〟と〝ふじさんネットワーク〟は同時期の発足なので、ほとんど同じ歴史を歩んできていると思います。私が初めて、〝ふじさんネットワーク〟の幹事となった当時は、自分たちの活動で手一杯で心の余裕もありませんでした。幹事会にも、最初の2年ぐらいは今ひとつよく分からないまま参加していたというのが正直なところです。しかし、参加しているうちに「これはすごく大事なことをやっている団体だから、名前を単に連ねているだけではなく、もっと積極的にならなければ」と思うようになりました。そんな時に、〝ふじさんネットワーク〟が主催の富士山勉強会で〝まなびの森〟の活動を発表する機会を頂きました。以来、より積極的に関わってきた結果、〝ふじさんネットワーク〟との距離感がとても近くなり、団体としての〝ふじさんネットワーク〟の存在をとても心強く感じています。

▲インタビューに応じる飯塚室長（奥）と「まなびの森」管理人の沢田氏（手前）

継続的に活動参加者を確保するために

これから先、ボランティア活動はより多くのステークホルダーとの連携が期待されています。そうなる

住友林業株式会社発行▶
「まなびの森」
20周年記念冊子

▲ネイチャーガイドによる天然林散策

と〝ふじさんネットワーク〟と企業の協力がますます大切になってくると思います。いま、弊社のボランティアイベントには、社員やご家族、ご友人が全国から来てくれています。できればもっと、地元の人が自分から直接富士山の活動に関われるようになればいいなと思います。私たちの開催するイベントに参加していただくことで、仕事とは違う喜びや達成感を感じる。そうしたきっかけを上手に作り「これだったら是非うちの社員にも声をかけてみよう」となるように工夫していきたいと思います。

富士山の自然環境保全については「外来種を除去する」などの具体的なアクションももちろん大切ですが、まず知識を得るとか関心を持つことが、一番の入口なのではないかなと思っています。富士山にはバスで来てちょっと歩けば自然の中に入れるという貴重なエリアがたくさんあります。〝ふじさんネットワーク〟が開催しているイベントに「参加してみようかな」と思っていただくことで、富士山の自然と繋がる一つのきっかけを作ることができればいいですね。富士山では自然と文化が密接に関わっています。富士山勉強会や世界遺産センターでは、富士山ならではの自然の特徴、文化や魅力を情報発信していくことが自然環境を残していく重要な役割を持っていると思います。富士山が綺麗に見える撮影スポットなどを紹介して、皆さんにもっと富士山を身近に感じて関心をもってもらいたいです。そこから初めて富士山の自然環境を守ろうというアクションにつながっていくのではないでしょうか。

今後は海外の方とか、一生に一度しか来られない方が〝ふじさんネットワーク〟に入会し、ずっと富士山を応援し続けられるような仕組みができたらおもしろい、と思います。例えば〝ふじさんネットワーク〟に入会してくれた方に会員証の代わりにバッジを配布してはどうでしょうか。メンバーの一員感が出る何かがあると話題にもなるし嬉しいかなと思います。「富士山では、こういう団体があって、こんな活動をしているよ」という話のきっかけが少しでも増えていくと個人の会員が増えていくと思います。なかなか普段は活動に参加できないけれど「遠くから応援しているよ」という心の繋がりを象徴できるアイテムだといいですね。

▼社内ボランティア活動でのあいさつ

これからの活動について

私たちが富士山〝まなびの森〟で2019年から行っている樹木調査には一般の方にもぜひ参加していただきたいと思っています。富士山の中にもともとどのような樹木があったのか、20年前に植えた広葉樹がどういう風に育ったか、というところをぜひ知っていただきたいです。

富士山にはとても豊かな自然があります。〝まなびの森〟は環境学習教育としても利用され、富士宮市の小中学生が年間約1,000名ほど訪れています。「木や森がどんなに大切なのか」ということを一番気づいていただける場所だと思うし、日本が世界に誇る富士山で活動できることは本当に幸せなことだと思っています。これからもいろいろな方と協力してずっと活動を続けていければいいな、と思っています。

これからの〝ふじさんネットワーク〟では、メンバーの方が自分でアクションを起こすだけでなく、まだメンバーになってない人達に向けてのPRを担う立場として活動内容を発信することで、もっとネットワークの輪が広がっていくと素晴らしいですね。

住友林業株式会社
サステナビリティ推進室長
飯塚 優子氏

大学卒業後電機メーカーに入社、スピーチライター、広報、渉外やIR・CSRなど、主にコミュニケーションに携わる業務を担当。外資系企業でCSR、広報などを統括するコミュニケーション本部長を経て2012年2月住友林業入社。コーポレートコミュニケーション室で広報、CSRの責任者を務めた後、2015年4月より現職。SDGsと連動した中期経営計画サステナビリティ編の策定・推進やISO14001事務局として環境管理などを行うほか、木材調達、SRI対応、サステナビリティレポート発行、植樹活動などの社会貢献プログラムを担当する部署を統括している。2017年2月よりスーパーグローバルハイスクール宮城県立気仙沼高校の民間指導委員。